

令和7年度
第2回みどり市地域公共交通活性化協議会

みどり市地域公共交通計画について

令和7年9月9日

目次

第2回協議会（本日）のポイント	1
1 第1回協議会からの主な修正点・追加点	2
2 第2回協議会（本日）の協議事項	2
1. 基本的な方針・目標、施策（案）	3
1 基本的な方針・目標【第1回協議会で承認】	4
2 みどり市公共交通計画での公共交通ネットワーク	5
3 ターゲット毎の利用イメージ	10
4 目標達成のための施策・事業	12
【参考資料】わたらせ渓谷鐵道の再構築について	38
2. 計画の評価・進行管理（案）	43
1 評価指標・目標値	44
2 計画の推進・進行管理	46
3. 今後のスケジュール（案）	48

第2回協議会（本日）のポイント

1 第1回協議会からの主な修正点・追加点

① 公共交通ネットワーク図に桐生市運行のおりひめバスを追加【p5～7】

- ✓ みどり市を跨ぐおりひめバス（中央幹線 群大系統、相生線、）、予約制おりひめ（相生北・南線）の追加
- ✓ みどり市の「大間々・笠懸路線バス」「電話でバス」と桐生市の「おりひめバス」「予約制おりひめ」で両市乗り換え可能ポイントの追加

② 東町で運行する交通空白地有償運送（グループ28）の位置づけの変更【p5.8.9】

- ✓ 「幹線交通（鉄道）」を補完する「支線交通」から、運行実態に合わせて「幹線交通」「支線交通」を補完する「補完交通」へと位置づけの変更

③ 目標達成のための施策・事業の体系図の再整理【p12.13】

- ✓ 施策・事業のターゲットを明確化するため、令和6年度活性化協議会より示してきた「課題」と、第1回協議会で示した「施策・事業」の体系図を再整理

④ ターゲット毎の現在の移動状況とみどり市が目指す移動のイメージの追加【p10.11】

- ✓ アンケート結果・事業者ヒアリング結果等からターゲット毎の現在の移動状況を整理
- ✓ みどり市地域公共交通計画の推進により、みどり市が今後目指す移動のイメージを整理

2 第2回協議会（本日）の協議事項

① 施策・事業について【p12～37】

みどり市地域公共交通計画策定後の、令和8年度から令和12年度の5年間で行っていく施策・事業についてご確認いただきます。

② 評価指標・目標値について【p44.45】

計画の目標を評価する「評価指標」「目標値」の考え方・数値についてご確認いただきます。

③ みどり市地域公共交通計画の推進・進行管理について【p46.47】

計画を実行していくにあたり、どのような主体がどのように計画に関わるのか、どのように計画を進めていくかについてご確認いただきます。

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

1 基本的な方針・目標【第1回協議会で承認】

本計画で定める「基本的な方針」「目標」を以下に定めます。

将来像（案）

第2次みどり市総合計画と
同じ目標を共有

～輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市～

基本的な方針（案）

地域公共交通の「あるべき姿」

輝くひと 輝くみどり 未来へつなぐ公共交通

【輝く人】 = 公共交通利用者 ⇒ 利便性を確保

【輝くみどり】 = 多様な公共交通 ⇒ 持続可能性を確保

目標（案）

地域公共交通の「あるべき姿を」
実現するために期間中に達成すべきこと

① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

- ・利用者が快適に移動できるだけでなく、生活の質を向上させ、地域の価値を高め、地域をつなぎ暮らしを支える公共交通を目指す。

② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通

- ・誰でも安心して利用できる環境を整え、安心と笑顔を運ぶ公共交通を目指す。

③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通

- ・人々の移動を円滑にすることで、まちに活気と成長をもたらし、地域の躍動を支える公共交通を目指す。

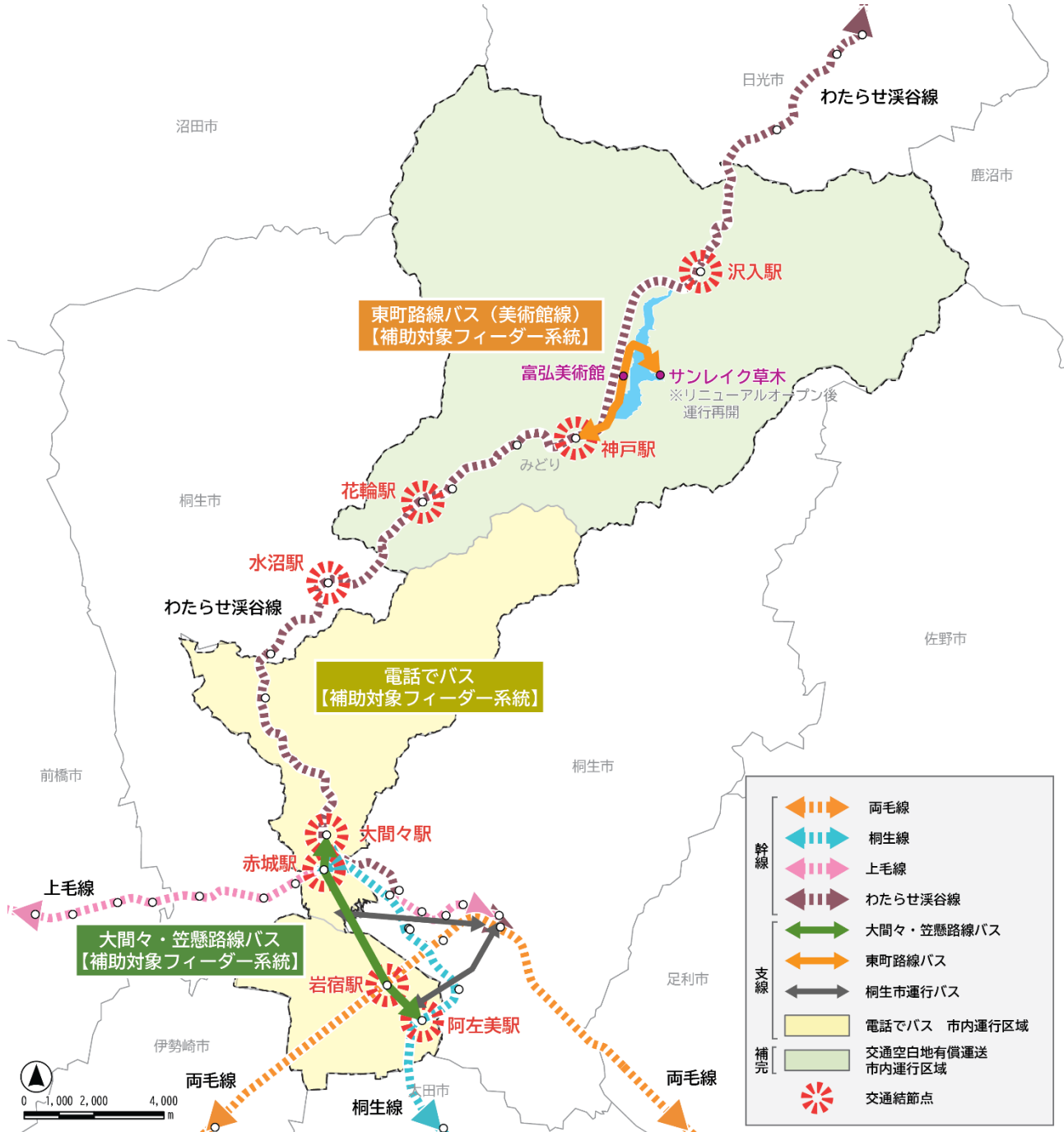
④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通

- ・地域住民や周辺自治体、交通事業者と連携し、持続可能で環境に配慮した、共に考え共に創る公共交通を目指す。

2 みどり市公共交通計画での公共交通ネットワーク

本計画の「基本的な方針」「目標」に基づき、本計画で位置づける公共交通ネットワークを以下に定めます。既存の公共交通を基本とし、隣接する桐生市の公共交通についても定めます。

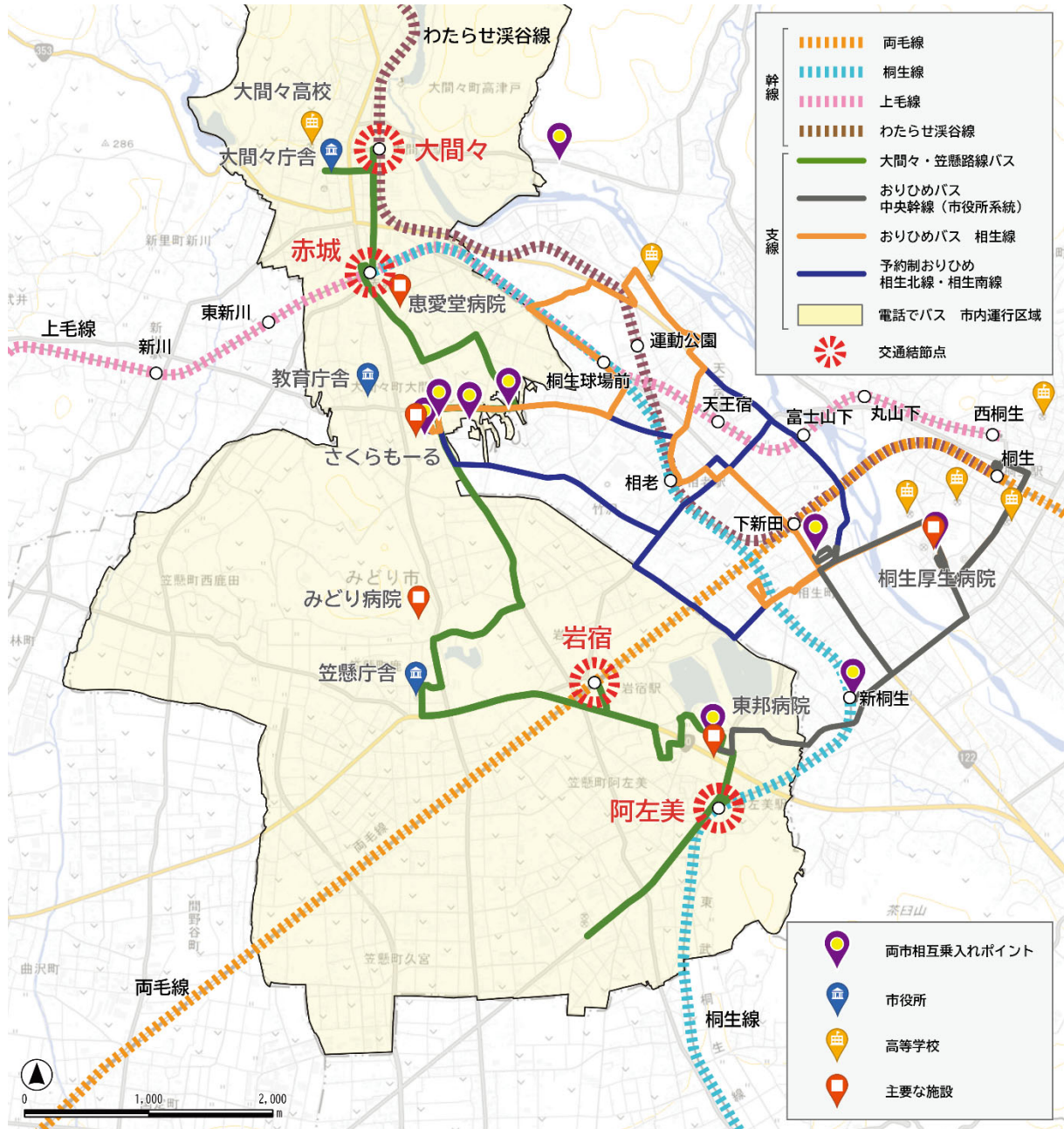
◎ みどり市全域の公共交通ネットワーク



位置づけ	考え方
幹線交通	みどり市と地域間・都市間をつなぐ鉄道を位置づける。
支線交通	幹線を補完するみどり市内の公共交通、隣接する桐生市からみどり市へ乗入れるバスを位置づける。
補完交通	幹線交通・支線交通ではカバーできない個別移動、特定の目的のための公共交通を位置づける。
交通結節点	幹線交通・支線交通・補完交通の乗継拠点、地域・生活拠点となる鉄道駅を位置づける。

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

● 南部地域（笠懸町・大間々町）の公共交通ネットワーク



位置づけ	No	交通サービス	交通事業者
幹線交通	1	両毛線	東日本旅客鉄道(株)
	2	桐生線	東武鉄道(株)
	3	上毛線	上毛電気鉄道(株)
	4	わたらせ渓谷線	わたらせ渓谷鐵道(株)
支線交通	5	大間々・笠懸路線バス【補助対象フィーダー系統】	みどり市（委託）
	6	電話でバス【補助対象フィーダー系統】	みどり市（委託）
	7	おりひめバス（中央幹線 市役所系統、相生線） 予約制おりひめ（相生北・相生南線）	桐生市（委託）
	8	タクシー	(株)沼田屋タクシー、桐生合同自動車(株)、桐生朝日自動車(株)
補完交通	9	福祉有償運送	福祉有償運送事業者
	10	小中学校スクールバス	みどり市（委託）
	11	桐生大学スクールバス	桐生大学（委託）
	12	ボートレース桐生無料巡回バス	(株)ボートネットワーク（委託）
補完交通 (環境に配慮)	13	観光周遊バス[eCOM-8]	みどり市観光協会
	14	レンタサイクル	みどり市（委託）、上毛電気鉄道(株)
交通 結節点	15	岩宿駅、阿左美駅、赤城駅、大間々駅	東日本旅客鉄道(株)、東武鉄道(株)、上毛電気鉄道(株)、わたらせ渓谷鐵道(株)

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

● 南部地域（笠懸町・大間々町）の位置づけ・役割

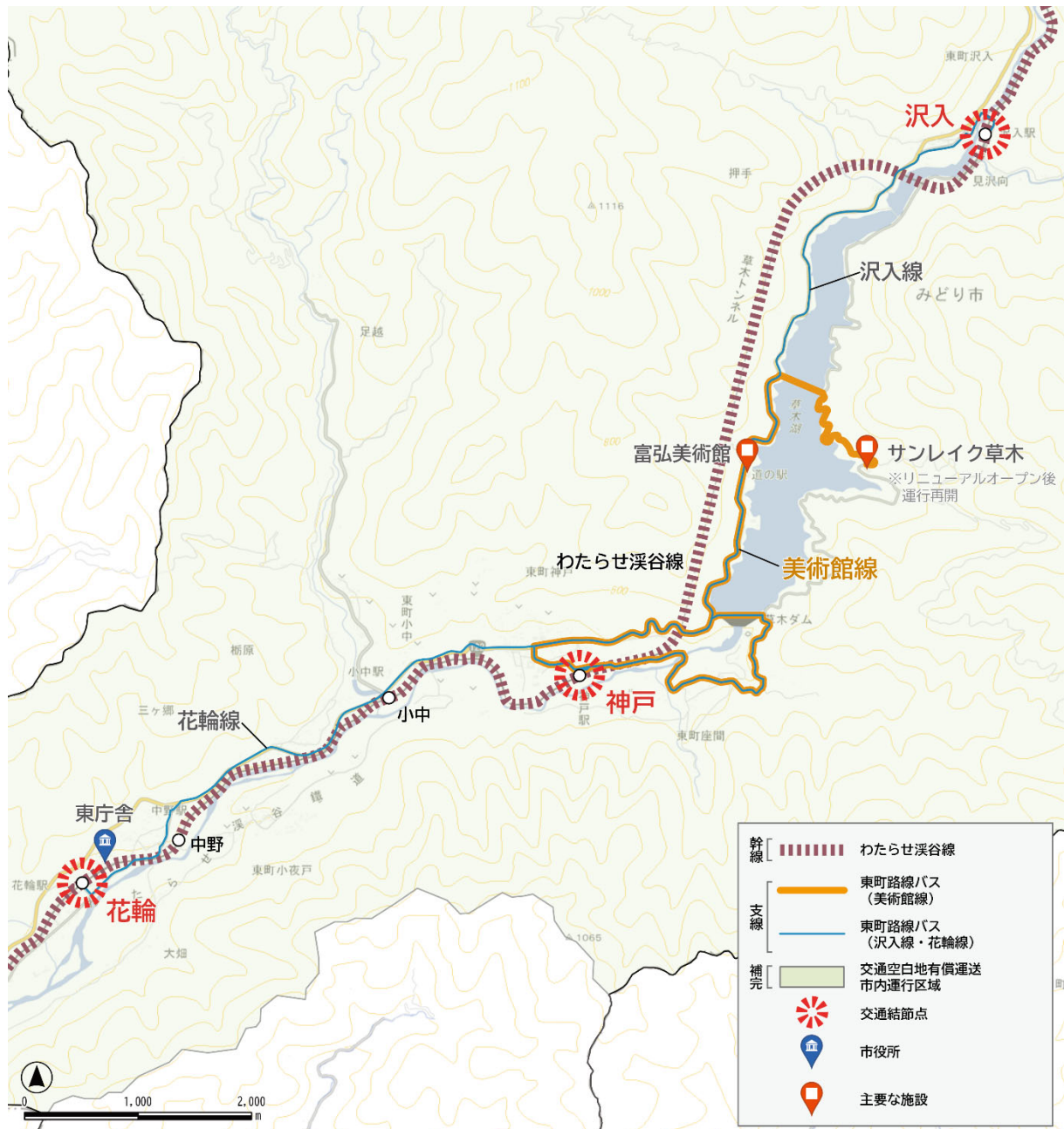
位置づけ	No	主な役割	確保・維持策
幹線交通	1	岩宿駅から桐生市・伊勢崎市・前橋市・高崎市への地域間の移動を担う。 JR 高崎線・北陸新幹線及び JR 宇都宮線・東北新幹線に接続し、都市間の移動を担う。	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保する。 地域の実情に応じて、様々な側面から持続可能な政策を検討する。※1 沿線住民の公共交通に関する意識醸成を促す取組を検討する。※1 沿線自治体によるわたらせ渓谷鐵道に対する補助は従来と同じ形式（第三セクター）で継続する。※2
	2	赤城駅・阿左美駅から太田市・館林市への地域間の移動を担う。 伊勢崎線及び日光線に接続し、都市間の移動を担う。	
	3	赤城駅から前橋市・桐生市への移動を担う。 通勤・通学をメインとした地域間の移動を担う。	
	4	大間々駅から東町・桐生市への地域間の移動を担う。 間藤駅からは日光市に接続し、都市間の移動を担う。	
支線交通	5	大間々駅・赤城駅・岩宿駅・阿左美駅を接続し、地域内の移動を担う。	地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続的な運行を目指す。 桐生市地域公共交通計画に基づき、持続的な運行・交通事業者と協議のうえ、一定上の運行水準を確保する。
	6	大間々・笠懸エリア内の地域内の移動を担う。 一部で、桐生市と地域間の移動を担う。	
	7	みどり市・桐生市間の地域間の移動を担う。	
補完交通	8	ドアツードアの移動を担う。 地域内・地域間の移動を担う。	利用ニーズに応じた運行水準を確保する。
	9	障がい者・高齢者等の個別の移動を担う。	
	10	統廃合した小中学校の学区の児童・生徒の登下校を担う。	
	11	桐生第一高校・桐生大学を結び、桐生駅・阿左美駅を経由し学生の登下校を担う。	
	12	岩宿駅・阿左美駅からポートレース桐生、ポートレース桐生・みどモスストリートパークまでの移動を担う。	
補完交通 （環境に配慮）	13	観光地までの移動、観光地の PR を目的とした運行を担う。	
	14	まちなかの周遊、観光地までの移動を担う。	
交通 結節点	15	幹線と支線を繋ぐ主要な鉄道駅であり、各公共交通の乗り継ぎの拠点を担う。	

※1：「上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道」のみ、※2：「わたらせ渓谷鐵道」のみ
あり方に関する基本方針」より）

（沿線地域交通リ・デザイン推進協議会「今後の

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

◎ 北部地域（東町）の公共交通ネットワーク



位置づけ	No	交通サービス	交通事業者
幹線交通	1	わたらせ渓谷線	わたらせ渓谷鐵道(株)
支線交通	2	東町路線バス(美術館線)【補助対象フィーダー系統】	みどり市(委託)
	3	東町路線バス(沢入線・花輪線)	みどり市(委託)
補完交通	4	交通空白地有償運送	特定非営利活動法人グループ28
	5	タクシー	(株)沼田屋タクシー、桐生合同自動車(株)、桐生朝日自動車(株)
	6	福祉有償運送	福祉有償運送事業者
	7	小中学校スクールバス	みどり市(委託)
補完交通(環境に配慮)	8	観光周遊バス[eCOM-8]	みどり市観光協会
交通結節点	9	花輪駅、神戸駅、沢入駅、水沼駅	わたらせ渓谷鐵道(株)

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

◎ 北部地域（東町）の位置づけ・役割

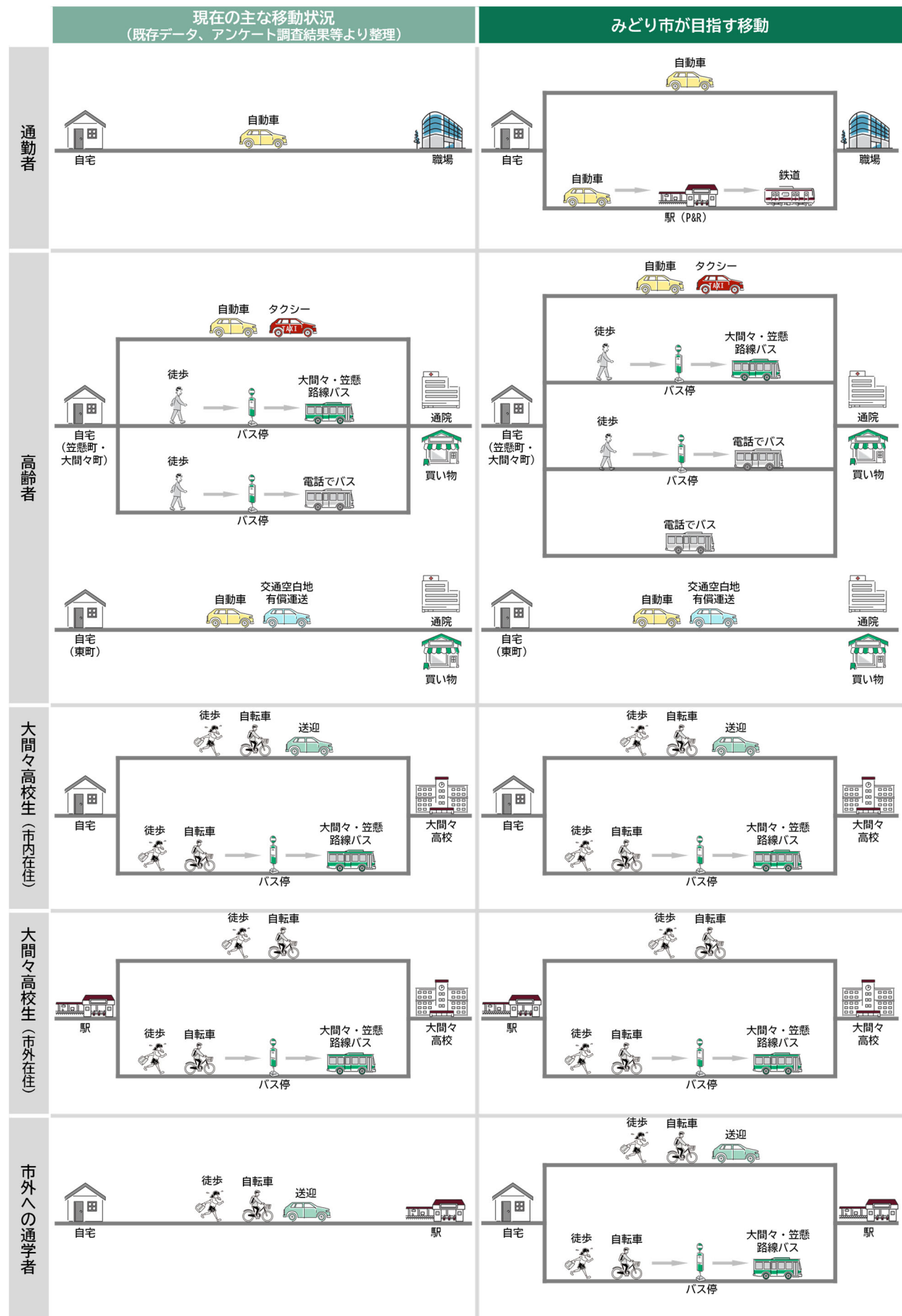
位置づけ	No	主な役割	確保・維持策
幹線交通	1	花輪駅・中野駅・小中駅・神戸駅・沢入駅から笠懸町・大間々町・桐生市への地域間の移動を担う。沢入駅からは日光市の間藤駅に接続し、都市間の移動を担う。	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保する。 地域の実情に応じて、様々な側面から持続可能な政策を検討する。※1 沿線住民の公共交通に関する意識醸成を促す取組を検討する。※1 沿線自治体によるわたらせ渓谷鐵道に対する補助は従来と同じ形式（第三セクター）で継続する※2
支線交通	2	神戸駅から富弘美術館までを接続し、わたらせ渓谷線から主に観光客の移動を担う。	地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続可能な運行を目指す。 利用ニーズに応じた運行水準を確保する。 地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続可能な運行を目指す。
	3	神戸駅・沢入駅・花輪駅を接続し、地域内の移動を担う。	
補完交通	4	日常生活の移動に困っている人の移動を担う。東エリアの地域内の移動、大間々・笠懸エリアの地域内の移動を担う。	引き続き運行に関わる支援を実施し、持続可能な運行を目指す。 利用ニーズに応じた運行水準を確保する。
	5	ドアツードアの移動を担う。地域内・地域間の移動を担う。	
	6	障がい者・高齢者等の個別の移動を担う。	
	7	あずま小中学校に通学する児童・生徒の登下校を担う。	
補完交通 （環境に配慮）	8	観光地までの移動、観光地のPRを目的とした運行を担う。	
交通 結節点	9	幹線と支線を繋ぐ主要な鉄道駅であり、各公共交通の乗り継ぎの拠点を担う。	

※1：「上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道」のみ、※2：「わたらせ渓谷鐵道」のみ
あり方に関する基本方針」より）

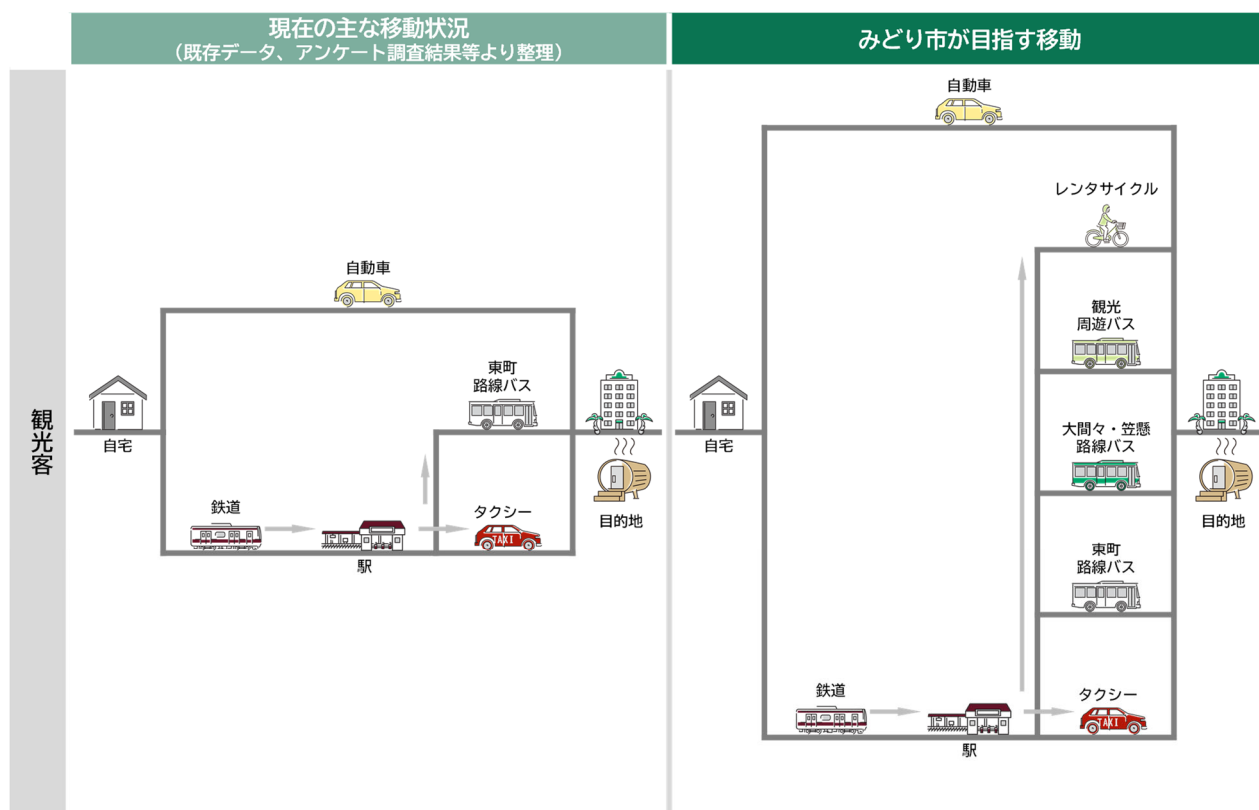
（沿線地域交通・デザイン推進協議会「今後の

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

3 ターゲット毎の利用イメージ



1. 基本的な方針・目標、施策（案）



1. 基本的な方針・目標、施策（案）

4 目標達成のための施策・事業

① 施策・事業体系

「基本的な方針」を踏まえ、「目標」を達成するための施策を以下に示します。

◎ 目標・施策・事業と課題（テーマ）の関係

	対応する課題（テーマ）						
	① 市民	② 高校生	③ 高齢者	④ 観光客	⑤ 安心・安全 魅力向上・ 発信 収入確保	⑥ 意識醸成 連携強化	⑦ 最適化 支出抑制 DX・新技術
	多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築	市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保	高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編	鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築	市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービス提供	一体となった連携体制の強化	笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に合った公共交通システムの構築
◎ テーマに直接的に関係する事業 ○ テーマに間接的に関係する事業							
① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通							
①-1 公共交通ネットワークの改善・強化							
①-1-1 4 鉄道の維持・連携強化	◎			○	○	○	
①-1-2 大間々・笠懸路線バスの改善・見直し		◎			○	○	○
①-1-3 東町路線バスの改善・見直し				◎	○		○
①-1-4 電話でバスの改善・見直し	◎		◎		○	○	○
①-1-5 バス車両の更新	○	○	○	○			◎
①-1-6 駅機能の整備	○	○	○	○	◎	○	○
①-1-7 ライドシェアの導入	◎					○	○
①-1-8 レンタサイクルの充実	○			◎	◎	○	
①-1-9 補助制度の活用	◎	◎	◎	◎			
①-2 交通DX・GXの推進							
①-2-1 AIオンデマンド交通システムの効果検証	◎		◎		○		◎
①-2-2 運賃のキャッシュレス化の導入	○			○	◎		○
①-2-3 バスロケーションシステムの導入	○			○	◎		○
①-2-4 グリーンスローモビリティの運行	○			◎	◎		○
①-2-5 デジタルサイネージの設置	○			○	◎		○
①-2-6 MaaSシステムの導入	○			○	◎	◎	◎
①-3 利用したくなる仕組みづくり							
①-3-1 公共交通イベントの開催					◎	○	
①-3-2 バス停留所の案内看板デザインの変更					◎		
①-3-3 運賃補助制度の拡充	○	○	○		◎		
①-3-4 広報戦略の改善					◎	◎	

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

対応する課題（テーマ）								
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
市民	高校生	高齢者	観光客	安心・安全 魅力向上・ 発信 収入確保	意識醸成 連携強化	最適化 支出抑制 DX・新技術		
多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築	市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保	高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編	鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築	市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービスの提供	一体となった多様な公共交通が強化	笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの構築		
◎ テーマに直接的に関係する事業 ○ テーマに間接的に関係する事業								
② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通								
②-1 バリアフリー化の推進								
②-1-1 バリアフリー車両の導入	○	○	○	○	◎			
②-1-2 駅機能の整備【①-1-6 再掲】	○	○	○	○	◎	○		○
②-2 快適性の向上								
②-2-1 公共交通オープンデータの整備・活用					◎			○
②-2-2 駅機能の整備【①-1-6 再掲】	○	○	○	○	◎	○		○
②-2-3 運賃のキャッシュレス化の導入【①-2-2 再掲】	○			○	◎			○
②-2-4 バスロケーションシステムの導入【①-2-3 再掲】	○			○	◎			○
②-2-5 デジタルサイネージの設置【①-2-5 再掲】	○			○	◎			○
②-2-6 MaaSシステムの導入【①-2-6 再掲】	○			○	◎	◎		◎
③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通								
③-1 まちづくりと連携した交通施策の推進								
③-1-1 立地適正化計画との連携	○					◎		○
③-1-2 観光施策との連携				◎		◎		
③-2 移動自体を楽しむ仕組みづくり								
③-2-1 景観を活かした運行	○			◎	◎			
③-2-2 グリーンスローモビリティの運行【①-2-4 再掲】	○			◎	◎			○
③-2-3 新たな移動サービスの調査・検討	○			○	◎			◎
④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通								
④-1 県・周辺自治体・市民と連携した交通施策の推進								
④-1-1 群馬県との連携強化						◎		○
④-1-2 桐生市との連携強化	○					◎		
④-1-3 市民PRチーム「み撮り部」による情報発信					◎	◎		
④-2 地域企業との連携								
④-2-1 地元企業産のグッズの販売					○	◎		
④-2-2 広告協賛事業の導入					◎			
④-2-3 商業施設・医療施設との連携					○	◎		
④-3 公共交通の実態の周知								
④-3-1 公共交通の利用実態調査・モニタリングの実施					◎			◎
④-3-2 出前講座の開催								◎
④-3-2 公共交通イベントの開催【①-3-1 再掲】					◎	○		
④-3-3 広報戦略の改善【①-3-4 再掲】					◎	○		

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

② 事業内容

施策体系を踏まえ、以下の内容で事業内容を整理します。

● 施策・取組の内容表の見方

目標番号	目標名
施策番号	施策名
背景 目的	● 施策の背景と目的を示します。

事業番号	事業名						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎ テーマ直接的に関係する事業、○ テーマに間接的に関係する事業						
事業内容	(1) 事業の内容を示します。						
エリア 路線等	● 事業の対象となるエリアや路線等を示します。						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【実施主体を示します】 ↓ 実施のスケジュールを示します					

①	人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通						
①-1	公共交通ネットワークの改善・強化						
背景 目的	- アンケート調査結果では、市民の移動の8割程度が自動車での移動であり、公共交通が利用されていない。 - 各公共交通の収支率は、年々悪化し個々の公共交通だけでの取り組みでは、持続可能な公共交通が維持できない状況となっている。 - 市民の公共交通利用での「おでかけ」を実現し、みどり市を訪れる観光客が快適に移動できるよう、既存の公共交通の改善・強化し、持続可能な公共交通を実現することを目的とする。 - 既存の公共交通の無駄を省き、効率的な運行と適切な予算配分を実現することを目的とする。						
①-1-1	4鉄道の維持・連携強化						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎			○	○	○	
事業内容	(1) 「上毛電気鉄道」「わたらせ渓谷鐵道」は、「沿線地域交通リ・デザイン協議会」において今後の鉄道のあり方を検討し、維持・連携強化を図るため、「地域公共交通計画」の策定をする。 (2) 既存のパークアンドライド駐車場の利用促進、サイクルトレインのさらなる周知による自転車の利用促進や観光振興により鉄道利用者の増加を図る。 (3) 「上毛電気鉄道」「わたらせ渓谷鐵道」は、「再生協議会等」において、計画的な車両更新・設備更新及び運行支援について検討を行う。 (4) 4鉄道が連携したイベントや運賃サービスを実施することで、みどり市だけでなく周辺地域の活性化に寄与する取組を実施する。 →事例：鉄道事業者による、「ぐんまローカルスタンプラリー」イベント →事例：東武鉄道による、「ふらっと両毛 東武フリーパス」						
エリア 路線等	JR 両毛線、東武桐生線、上毛線、わたらせ渓谷線						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【鉄道事業者、群馬県、みどり市】リ・デザイン推進協議会による協議					
		【鉄道事業者・群馬県・みどり市】地域公共交通計画の策定					
	(2)	【鉄道事業者】パークアンドライド・サイクルトレインの強化					
	(3)	【鉄道事業者、群馬県、みどり市】再生協議会での更新を検討					
	(4)	【鉄道事業者】4鉄道が連携した取組の継続					

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

①-1-2	大間々・笠懸路線バスの改善・見直し						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		◎			○	○	○
事業内容	(1) 鉄道（大間々駅、赤城駅、岩宿駅、阿左美駅）との接続を考慮したダイヤの調整を図る。 (2) 大間々高校生や市外へ通学する高校生が通学時間帯に利用できるよう、ダイヤの調整を図る。 (3) 高校生の多い笠懸南部に路線バスの運行を検討する。 (4) 「恵愛堂病院」「東邦病院」のバス停については、利用者の動向に合わせたダイヤの調整を図る。						
エリア 路線等	● 大間々・笠懸路線バス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【委託業者、みどり市】ダイヤの調整・随時見直し					
(2)							
(3)		【委託業者、みどり市】導入の検討					
(4)		【委託業者、みどり市】ダイヤの調整・随時見直し					

①-1-3	東町路線バスの改善・見直し						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
				◎	○		○
事業内容	(1) 現行路線における利用実態や今後の沿線の取組を踏まえ、想定されるニーズに対応できる路線への見直しを検討する。 (2) 主に観光客に利用され、「富弘美術館」「サンレイク草木」への需要があり、10月から11月にかけて利用者が増加するため、利用動向に合わせて増便などの対応の検討を行う。						
エリア 路線等	● 東町路線バス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【委託業者、みどり市】利用実態等を踏まえた路線の見直しの検討・実施					
(2)		【委託業者、みどり市】美術館線の増便対応の検討・実施					

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

①-1-4	電話でバスの改善・見直し						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○		○		○	○	○
事業内容	(1) 住民の高齢化や「バス停まで遠い」といった実態に対応するため、玄関先まで迎えに行く仕組みも含め、運行体制を見直す。併せて、予約が取りにくい状況を改善し、効率的で利用しやすいデマンドバスを目指す。						
エリア 路線等	● 電話でバス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【委託事業者、みどり市】バス車両の計画的な更新				

①-1-5	バス車両の更新						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	○	○	○
事業内容	(1) みどり市が運行する路線バス・電話でバスの持続的な運行のため、計画的な車両更新を行う。						
エリア 路線等	● 大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【みどり市】バス車両の計画的な更新				

①-1-6	駅機能の整備						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	○	○	○
事業内容	(1) 「岩宿駅を核とした総合的なまちづくりプラン」に基づき、岩宿駅の整備を実施し、利用者の利便性と快適性の向上を図る。 (2) その他の駅についても、まちづくりや利用者動向に応じて、駅機能の整備を検討する。						
エリア 路線等	● 岩宿駅、その他市内の駅						
実施主体	● みどり市、交通事業者						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【みどり市】 用地交渉、駅舎機能やコストの比較検討、検討結果を踏まえた事業推進（設計等）					
	(2)		【みどり市】まちづくり・利用者動向に応じて検討・実施				

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

①-1-7	ライドシェアの導入検討						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎					○	○
事業内容	(1) タクシー事業者の運転手不足への対応及び桐生市との生活圏との一体化を目的として、タクシー事業者・桐生市と連携し、「自家用車活用事業（日本版ライドシェア）」の導入を検討する。 →桐生市では、タクシー運転手不足への対応として、タクシーの空き車両を活用した「自家用車活用事業（日本版ライドシェア）」令和6年11月29日より開始し、市民の移動手段を確保している。						
エリア 路線等	● 市内全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【タクシー事業者、桐生市】桐生市での日本版ライドシェアの運行					
			【タクシー事業者、桐生市、みどり市】みどり市内での検討・実施				

①-1-8	レンタサイクルの充実						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			◎	◎	○	
事業内容	(1) さらなる周知・PRを進め、利便性向上を図るため、設置場所の増設や車両の増車など、利用状況に応じて検討する。 →市内5か所（みどり市観光協会、大間々駅前観光案内所、岩宿博物館、花輪駅、赤城駅）に無料のレンタサイクルを設置し、主に観光客の移動手段として活用されている。						
エリア 路線等	● みどり市観光協会、大間々駅前観光案内所、岩宿博物館、花輪駅、赤城駅 ● その他主要な施設						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【みどり市】レンタサイクルの継続					
			【上毛電気鉄道、みどり市観光協会、民間事業者、みどり市】設置場所の増設、車両の増車に向けた検討・導入				

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

①-1-9	補助制度の活用						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎	◎	◎	◎			
事業内容	(1) 持続可能な運行体制を構築するため、群馬県市町村乗合バス補助金、地域公共交通確保維持改善事業（国費）を活用し、維持・改善に取り組む。 →大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバスは、市民・観光客の移動手段として必要不可欠である。しかし、本市や事業者の運営努力だけでは、路線の維持が困難となっている。						
エリア 路線等	● 大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【みどり市】補助制度の活用の検討・実施					→

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

①	人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通						
①-2	交通 DX・GX の推進						
背景 目的	「みどり市デジタル化推進計画」「みどり市 SDGs 未来都市計画」に基づき、DX・GX を推進しており、持続可能なまちづくりが求められている。 - デジタル技術を活用した事業改革と環境に配慮した運行を推進し、持続可能な公共交通を構築することを目的とする。						
①-2-1	AI オンデマンド交通システムの効果検証						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎		◎		○		◎
事業内容	(1) 予約に応じた最適ルートの自動運行とスマートフォンアプリの活用により、「予約が取りにくい」問題の解消や利便性の向上を図る。 →利用者アンケートやヒアリングを通じて効果を検証し、より高い利便性と効率的な運行を目指す。						
エリア 路線等	- 南部地域（大間々・笠懸エリア） - 電話でバス						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	【委託事業者、みどり市】効果検証結果により随時見直し					
①-2-2	運賃のキャッシュレス化の導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎		○
事業内容	(1) 導入によって利便性が向上し、時間短縮に寄与する。また、現金管理の手間が削減され、運営コストの抑制にもつながるため、今後の利用者動向に応じて段階的な導入を検討する。 →令和6年6月に大間々・笠懸路線バスに電子決済端末を導入したが、電子決済端末の利用率は0.5%から4%で推移している。						
エリア 路線等	大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバス						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	【委託事業者、みどり市】利用者動向に応じて導入検討					

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

①-2-3	バスロケーションシステムの導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎		○
事業内容	(1) バスの乗り遅れなどを防ぐため、スマートフォン等でバスの現在地を確認できるバスロケーションシステムの導入を検討する。						
エリア 路線等	● 大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話バス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【委託事業者、みどり市】導入に向けた検討					→

①-2-4	グリーンスローモビリティの運行						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			◎	◎		○
事業内容	(1) みどり市観光協会が所有するグリーンスローモビリティを活用し、既存イベントでの運行に加え、ゆったりとしたスピードとコンパクトな車両という特徴を活かし、まちなか周遊ルートの開拓を検討する。						
エリア 路線等	● 市内全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【みどり市観光協会、みどり市】連携した運行の実施					→

①-2-5	デジタルサイネージの設置						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			○	◎		○
事業内容	(1) 市内の主要駅やバス停留所、商業施設、医療施設などにデジタルサイネージを設置し、利便性の向上と情報発信の強化を図る。リアルタイムの運行情報や遅延通知を提供し、乗客の移動をよりスムーズにするとともに、公共交通の利用メリットを最大化する。 →設置にあたっては、多言語対応による訪日外国人向けの案内強化や、視認性の高い情報デザインを採用し、より多様な利用者が快適に移動できる環境を実現する。						
エリア 路線等	● 主要な駅・バス停 ● 商業施設・医療施設						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【民間事業者、交通事業者・みどり市】関係者・施設管理者との協議の上、設置検討・実施					→

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

①-2-6	MaaS システムの導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			○	◎	◎	○
事業内容	(1) 群馬県で運営している「GunMaaS」やみどり市独自の「行政 MaaS※」の導入を検討する。 →MaaS (Mobility as a Service) システムの導入により、市民や観光客の移動ニーズに対応し、複数の公共交通や移動サービスを最適に組み合わせた検索・予約・決済を一括で行うことが可能となる。さらに、観光や医療など交通以外の分野との連携を強化することで、移動の利便性向上だけではなく、地域の活性化にも貢献する。 →※行政 MaaS：庁舎とオンラインで接続されたマルチタスク車両を活用し、行政職員が現地へ移動することなく、各種申請や相談に対応できる移動型行政サービス。住民がアクセスしやすい場所で行政サービスを受けられる。						
エリア 路線等	● 市内全域						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	【交通事業者、委託事業者、みどり市】 みどり市に合ったシステムの検討・導入 					

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

①	人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通						
①-3	利用したくなる仕組みづくり						
背景 目的	● 路線バスを利用しない理由として、運行エリアの住民であっても「バスの存在を知らない」や「自家用車を運転するため利用しない」といった要因がある。そのため、情報の周知や公共交通の魅力を発信することが求められている。 ● 特に通学時に鉄道を利用しない高校生は、公共交通に対する関心が低い傾向があり、幼少期から公共交通への関心を育むことが求められている。 ● 公共交通の利便性向上だけでなく、移動の快適性と情報提供の質を向上させ、魅力を発信することで、利用の「きっかけ」を創出し、さらなる利用促進を図ることを目的とする。						
①-3-1	公共交通イベントの開催						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎	○	
事業内容	(1) 公共交通の魅力を広く伝え、利用促進と認知度向上を図るため、交通機関を活用した体験型イベントや地域住民・観光客向けの公共交通イベントの実施を検討する。 →公共交通の利用方法を分かりやすく伝えることで、誰もが安心して公共交通を利用できる環境を整え、利用促進を図る。 →事例：鉄道事業者による、「ぐんまローカルスタンプラリー」イベント →事例：上毛電気鉄道(株)による、「デハ101」車両の貸切運転 →事例：上毛電鉄友の会による、「スタンプラリー」イベント ◎ ぐんまローカルスタンプラリー ◎ 上毛電鉄友の会企画のスタンプラリー 【対象デジタル駅スタンプデザイン ～JR 東日本～  出典：JR 東日本 HP ★エキタラ駅情報導入駅  出典：上毛電鉄友の会 HP						
エリア・ 路線等	● 各公共交通 ● 各駅						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【鉄道事業者、関係団体】鉄道各社によるイベントの実施継続 【交通事業者、観光協会、みどり市】みどり市が主体となったイベントの検討・実施						

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

①-3-2	バス停の案内看板デザインの変更						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		
事業内容	(1) バス停でバスを待つ時間が「楽しい」と思えるデザインへの変更を行う。第一段階として大間々・笠懸路線バスを対象に行う。 →バス停の案内看板のデザインを刷新することで、利用者の利便性向上と公共交通の魅力向上を図る。視認性の高いデザインの採用や、多言語対応による情報提供の強化を進めることで、誰もが快適に公共交通を利用できる環境を整える。 →みどり市の特色を活かしたデザイン要素を取り入れることで、公共交通と地域の魅力を一体的に発信し、まちづくりの観点からも貢献する。						
エリア 路線等	● 大間々・笠懸路線バス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【委託事業者、みどり市】デザインの検討・実施					→

①-3-3	運賃補助制度の拡充						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○		◎		
事業内容	(1) 高齢者、障がい者、学生、子育て世帯、観光客など、移動の支援が求められる層に対して補助を行い、公共交通の利用促進と移動負担軽減を図る。 →移動の利便性を向上させるだけでなく、地域経済の活性化や公共交通の持続可能性確保にも寄与する。						
エリア 路線等	● 各鉄道、大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバス						
実施主体	● みどり市						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【みどり市】高校生・高齢者への運賃補助の継続					→
		【みどり市】他の利用者に対する補助の検討・導入					→

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

①-3-4	広報戦略の改善						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎	◎	
事業内容	(1) 各公共交通が連携し、統一された情報提供の仕組みを検討する。 →SNS や公式アプリを通じたリアルタイム情報提供、地域イベントとの連携、視認性の高い広告展開などを進めることで、公共交通の魅力を効果的に伝え、利用促進につなげる。また、多言語対応やアクセシビリティ向上にも重点を置き、より多様な利用者に向けた情報発信の強化を推進する。						
エリア 路線等	● 各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【交通事業者、観光協会、みどり市】各公共交通事業者による運営継続 →					
		【交通事業者、観光協会、みどり市】統一された情報提供の検討・導入 →					

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

②	安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通						
②-1	バリアフリー化の推進						
背景 目的	60 歳以上で、5 年以内に免許返納を検討している人は、バリアフリー化への関心が高い傾向があるが、路線バスをはじめ、十分なバリアフリー対応が進んでいないため、さらなる整備を進め、交通の障壁をなくすことが求められている。 - 車両・駅・バス停などのバリアフリー化を進めることで、公共交通の利用における障壁をなくすことを目的とする。						
②-1-1	バリアフリー車両の導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎		
事業内容	(1) 様々な条件の方が快適に公共交通を利用できる環境を整えるため、車両更新の際はバリアフリー対応の車両を導入する。 →高齢者や障がい者、ベビーカー利用者など、多様な乗客の移動を支援し、公共交通の利便性の向上と持続可能な移動環境の実現に貢献する。						
エリア 路線等	大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【みどり市】更新時期に合わせてバリアフリー車両の導入				
②-1-2	駅機能の整備【①-1-6 再掲】						

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

②	安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通						
②-2	快適性の向上						
背景 目的	「バスがいつ乗れるかわからず不安」と感じることや、運賃のキャッシュレス化の遅れなどによって、公共交通の利用にストレスを感じているため、快適性の向上が求められている。 - デジタル技術の活用や待合環境の改善を通じて、公共交通の利用をより快適にし、ストレスのない移動を実現することを目的とする。						
②-2-1	公共交通オープンデータの整備・活用						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		○
事業内容	(1)「標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP）」の整備を進め、インターネットでの経路検索をはじめ、デジタルサイネージでの運行案内、各種アプリとの連携など活用方法を検討する。 →国土交通省では、経路検索に必要な情報の整備を促進するとともに、バス事業者と経路検索事業者等の情報利用者との間で、データの受け渡しが効率的に行われるよう、平成 29 年 3 月に、経路検索に必要な時刻表や運行経路等の静的情報を統一された様式でデータ化する方法を「標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP）」として定めている。						
エリア 路線等	各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【委託事業者、みどり市】オープンデータの整備・活用の検討				
②-2-2	駅機能の整備【①-1-6 再掲】						
②-2-3	運賃のキャッシュレス化の導入【①-2-2 再掲】						
②-2-4	バスロケーションシステムの導入検①-2-3 再掲】						
②-2-5	デジタルサイネージの設置【①-2-5 再掲】						
②-2-6	MaaS システムの導入【①-2-6 再掲】						

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

③	活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通						
③-1	まちづくりと連携した交通施策の推進						
背景 目的	● 本市は、市町村合併により「笠懸町」「大間々町」「東町」とそれぞれの地理条件や人口規模が異なるため、立地適正化計画による「コンパクト」な市街地の形成と併せて、地域・生活拠点をつなぐ「ネットワーク」の維持・形成が必要となる。 ● みどり市観光振興計画と連携し、計画の柱の一つである「街道の文化を生かし、地域間の資源をつなぐ」に寄与する公共交通を実現する必要がある。 ● 「第2次みどり市総合計画」で掲げる将来像「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」の実現に向け、公共交通の分野からまちづくりを推進することを目的とする。						
③-1-1	立地適正化計画との連携						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○					◎	○
事業内容	(1) 立地適正化計画と一体となった施策を実施することで、住民移動の円滑化、地域の活性化を促進する。 →立地適正化計画で位置づけた居住誘導区域と都市機能誘導区域、地域・生活拠点つなぐ路線バス・電話でバスの運行を継続し、市民や来訪者の移動を確保することで、生活の質の向上・地域の活性化に寄与する。						
エリア 路線等	● 全域						
実施主体	● みどり市、交通事業者						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【みどり市】みどり市立地適正化計画の策定					
		【交通事業者、みどり市】立地適正化計画と連動した施策の推進					

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

③-1-2	観光施策との連携						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
				◎		◎	
事業内容	(1) 公共交通での来訪を促進するため、みどり市観光協会や交通事業者と連携し、周知・PRを強化する。 →みどり市観光ポータルサイト（いろどりみどり市）を活用し、公共交通を利用したアクセス方法や運行状況を公開することで、公共交通利用のハードルを下げる。観光客の移動の周遊性を高め、新規の来訪者やリピーターの増加を促進する。 →わたらせ渓谷鐵道のサンレイク草木や水沼駅では開発が進み、みどり市・桐生市への来訪者の増加が見込まれる。						
エリア 路線等	● 全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【みどり市観光協会、みどり市】いろどりみどり市の継続運営					
		【交通事業者、みどり市観光協会、みどり市】いろどりみどり市と連携した公共交通情報の発信					

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

③		活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通						
③-2		移動自体を楽しむ仕組みづくり						
背景 目的	● 来訪者アンケート結果では、みどり市を訪れる目的として「わたらせ渓谷の自然景観を楽しむ」「鉄道を楽しむ」ことが求められている。 ● 鉄道や路線バスを楽しみながら移動することで、地域自体の魅力を引き出し、住民や観光客が公共交通を利用する動機となる。 ● 公共交通を単なる移動手段とするのではなく、移動そのものを楽しめるようにし、みどり市ならではの特別な移動環境を整えることを目的とする。 ● 公共交通とまちなか活性化事業を組み合わせ、地域の活性化を推進することを目的とする。							
③-2-1		景観を活かした運行						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
	○			◎	◎		○	
事業内容	(1) みどり市の美しい景観を最大限に活用し、公共交通の魅力を向上させる。車窓からの風景を楽しめるルート設定や、観光資源と連携した特別運行を実施することで、移動そのものを体験型コンテンツとして提供する。 →事例：わたらせ渓谷鐵道(株)による、「トロッコわたらせ渓谷号」「トロッコわっしー号」の運行 →事例：みどり市観光協会による、「観光周遊バス（グリーンスローモビリティ）」の運行							
エリア 路線等	● 各公共交通							
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	
実施主体	(1)	【交通事業者、みどり市観光協会、みどり市】景観を活かした運行の継続						
③-2-2		グリーンスローモビリティの運行【①-2-4 再掲】						

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

③-2-3	新たな移動サービスの調査・検討						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			○	◎		◎
事業内容	(1) みどり市観光協会が運行する観光周遊バス（低速電動バス）だけでなく、みどり市を知ってもらうためのツールとして、地域の活性化に寄与する新たな移動サービスの導入に向けた調査・検討を行う。						
エリア 路線等	● 市内全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【交通事業者、みどり市観光協会、みどり市】 新たな移動サービスの調査・検討				

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

④	自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通						
④-1	県・周辺自治体・市民と連携した交通施策の推進						
背景 目的	- 群馬県主導の「沿線地域交通リ・デザイン推進協議会」において、「上毛電気鉄道」「わたらせ渓谷鐵道」の再構築を目的とした協議が行われており、『地域公共交通計画』の策定を目指している。 - 市民の日常の移動において、桐生市との連携が求められている。 - 群馬県及びみどり市と生活圏を共有する桐生市の連携を強化し、地域の活性化を促すことを目的とする。						
④-1-1	群馬県との連携強化						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
						◎	○
事業内容	(1) GunMaaS の活用や公共交通に関するイベント開催などの群馬県との連携事業を一層強化するとともに、鉄道会社の現状分析等を踏まえた車両更新計画の検討や、各鉄道会社の経営力・企画力強化に向けたサポート体制の導入を進めます。併せて、鉄道沿線にもたらす効果を最大化する取組を検討し、地域の活性化につなげます。						
エリア 路線等	全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【交通事業者、群馬県、みどり市】連携強化に向けた取組の検討・実施					
④-1-2	桐生市との連携強化						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○					◎	
事業内容	(1) バス交通について、桐生市との乗り入れポイントを拡充し、市民のさらなる利便性向上を図る。 (2) 将来的には両市での一体的なバス路線体系の構築を目指す。						
エリア 路線等	桐生市（おりひめバス）、みどり市（大間々・笠懸路線バス、電話でバス）						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【交通事業者、桐生市、みどり市】両市での相互乗り入れの継続・強化					
	(2)	【交通事業者、桐生市、みどり市】両市での一体的なバス路線体系の検討					

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

④-1-3	市民PRチーム「み撮り部」による情報発信						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎	◎	
事業内容	(1) 2025 年 7 月に若者目線で発見したみどり市のいいところを写真に収め、情報を発信する市民 PR チーム「み撮り部」が発足した。活動目的である「若い世代や高校生と協力し、若者ならではの視点で地域の魅力を発信する」「地域の新しい魅力を見つけることで、若い世代が地域に誇りを持てるようにする」を公共交通の分野で最大限に活かし、行政・交通事業者・利用者・その他関係者と連携を図り、みどり市の魅力を発信する。 ● 2025 年 7 月に発足した市民PRチーム「み撮り部」 出典：みどり市 HP						
エリア 路線等	● 市内全域 ● 全ての公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【み撮り部】2025 年 7 月発足 → 【み撮り部】みどり市の公共交通の魅力を発信 →					

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

④	自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通						
④-2	地域企業との連携						
背景 目的	- わたらせ渓谷鐵道では、運賃外収入としてグッズの販売を行っているが地元企業のPRを同時に行っている。 - 公共交通を単なる移動手段として利用するのではなく、みどり市を知ってもらうためのツールとして活用し、地域の活性化につなげることを目的とする。 - 地域ブランドの認知度向上と公共交通の利便性向上を両立させ、持続可能な社会づくりを推進することを目的とする。						
④-2-1	地元企業産のグッズの販売						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					○	◎	
事業内容	(1) 地域の公共交通機関と地元企業が連携し、特産品やオリジナルグッズの販売を通じて、地域活性化と公共交通の利用促進を図る。駅やバス停、車両内などのスペースを活用し、観光客や通勤・通学者に向けて地元企業産の魅力ある商品・情報を提供する。 →オンライン販売や乗車特典の限定アイテム展開を通じて、公共交通の利用価値を高めるとともに、地域経済への貢献を強化や乗務員確保に貢献をする。 →事例：わたらせ渓谷鐵道(株)による、織物鐵印の販売 →事例：上毛電気鐵道(株)による、地元企業産グッズ等の販売 「桐生織」による織物鐵印 - 車掌・運転士・車両バッジ   出典：わたらせ渓谷鐵道 HP 出典：上毛電気鐵道 HP						
エリア 路線等	- 各公共交通 - 主要な鉄道駅						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【交通事業者、みどり市】鉄道各社の実施継続 【交通事業者・みどり市】みどり市、みどり市観光協会での導入検討						

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

④-2-2	広告協賛事業の導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		
事業内容	(1) 鉄道・バス車両や時刻表への広告掲載、停留所のネーミングライツ、車両ラッピングなどの協賛金により、運賃外収入を確保する。 ◎ つり革オーナー制度  出典：上毛電気鉄道 HP ◎ まくら木オーナー制度  出典：上毛電気鉄道 HP						
エリア 路線等	● 市内全域 ● 各公共交通 ● 主要な鉄道駅						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【鉄道事業者】鉄道各社での実施継続 【委託事業者、みどり市】みどり市路線バス・電話でバスでの導入検討						

④-2-3	商業施設・医療施設との連携						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					○	◎	
事業内容	(1) 公共交通利用者向けの施設内優待サービスの提供、乗車券と施設利用特典を組み合わせたキャンペーンなどの実施を検討する。 →公共交通と商業施設・医療施設が連携し、地域住民や訪問者の移動利便性を向上させるとともに、施設利用の利便性を図る。						
エリア 路線等	● 市内全域 ● 各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【民間事業者・委託事業者・みどり市】さくらモールでの割引券の発行の継続 【民間事業者・委託事業者・みどり市】他の商業施設・医療施設との連携の検討						

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

④	自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通						
④-3	公共交通の実態の周知						
背景 目的	● 市民の移動の8割程度が、自動車での移動であり、公共交通に対する意識が低く、公共交通が利用されていない。 ● 公共交通を利用する人は、公共交通への意識が高い傾向がある一方で、通学時に鉄道を利用していない高校生は、その意識が低く、将来的に公共交通を利用しなくなる可能性が懸念される。 ● 移動手段を提供するだけでなく、公共交通の現状と将来のあり方を共に考え、利便性の向上とサービス認知度の拡大を図り、持続可能な公共交通を構築することを目的とする。						
④-3-1	公共交通の利用実態調査・モニタリングの実施						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
							◎
事業内容	(1) モニタリングを通じて施策の効果を評価し、必要に応じて改善を行うため、利用者数の調査やアンケートを実施し、地域交通のニーズの変化を把握する。 →利用実態のない区間やバス停留所について、随時見直しを行うための根拠資料として活用する。						
エリア 路線等	● 各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【交通事業者・みどり市】利用実態調査・モニタリングの継続					
④-3-2	出前講座等の開催						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		◎
事業内容	(1) 「みどり市どこでも出前講座」をはじめとした出前講座を実施し、公共交通の乗り方を学ぶとともに認知度や意識の向上を図り、公共交通利用への第一歩となるような機会を提供する。 (2) 市内の小中学生を対象に、みどり市の路線バス車両を使った「バスの乗り方教室」を開催する。公共交通の使い方を学ぶことで、バス利用への不安を減らし、気軽に乗れる環境づくりを目指す。						
エリア 路線等	● 各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
		【交通事業者・みどり市】出前講座の開催					
		【交通事業者・みどり市】出前講座の開催					

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

④-3-3

公共交通イベントの開催【①-3-1 再掲】

④-3-4

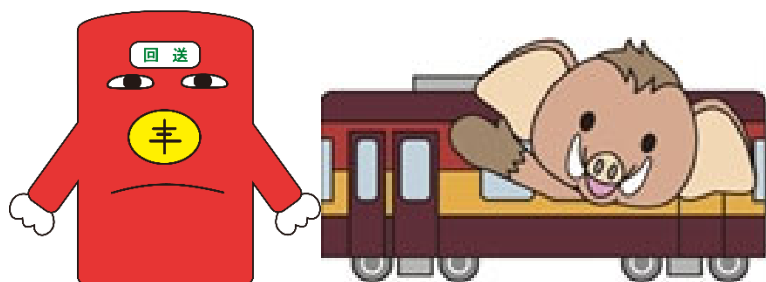
広報戦略の改善【①-3-4 再掲】

【参考資料】わたらせ渓谷鐵道の再構築について

① わたらせ渓谷鐵道リ・デザイン推進協議会の設立

わたらせ渓谷線は、桐生市の桐生駅からみどり市の沢入駅を經由し、県境を越えて栃木県日光市の間藤駅まで、渡良瀬川沿いを運行する鉄道路線です。桐生・みどり市地域及び栃木県足尾地域における主要交通軸であり、沿線地域住民の通勤・通学や観光等で地域を訪れる人々の貴重な移動手段です。

ですが、近年の人口減少やコロナウイルス感染症蔓延による変化等の影響から、非常に厳しい経営状況となっています。このため、県、沿線市、鉄道事業者、交通事業者、利用者、関係団体等が一丸となり、改めて地域の鉄道の現状を直視し、危機意識を共有した上で、わたらせ渓谷鐵道沿線地域の公共交通を、単なる現状維持ではなく、コンパクトでしなやかなものに再構築（リ・デザイン）することを目的として、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成19年法律第59号）第6条に基づき、わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会を設置しました。



「わたらせ渓谷鐵道リ・デザイン推進協議会」では、以下の基本方針が定められました。

わたらせ渓谷鐵道の今後のあり方に関する基本方針

R7.2.4
わたらせ渓谷鐵道沿線
地域交通リデザイン
推進協議会
経営連絡分科会

前提

1. 鐵道のあり方

沿線住民等アンケート調査結果やその他基礎データに基づき経営連絡分科会で議論した結果、鐵道線を活かした沿線地域の価値の最大化を目指すことを前提として、（A）わたらせ渓谷鐵道は全線鐵道として存続※1、（B）沿線自治体によるわたらせ渓谷鐵道に対する補助は従来と同じ形式（第三セクター）で継続する※2こととなった。※3

- ※1 沿線住民等アンケートで、鐵道存続のための運賃値上げ（約7割が賛同）や負担金支払（約3割が賛同）を許容する鐵道の存在価値を認める結果が出た。
・調査の結果、バス・BRT転換時の収支予測やクロスセクター効果試算結果はバス優位であったものの、鐵道として存在することが沿線地域の価値向上に大きく寄与するなどの鐵道の多面的機能・存在価値を踏まえ、存続のために必要な負担を行っていく考えで一致した。
- ※2 完全上下分離方式等の他の支援スキームを検討したが、土地譲渡が難しい、線路・電路などのいわゆる「下」部分の管理を自治体が行うには技術者の確保が必要等の課題が多く、現行の補助形式を上回るメリットはなかった。
- ※3 現時点におけるアンケート調査やその他基礎データに基づいた結果であり、大幅な数値変更等が発生した場合には、（A）（B）を見直す可能性がある。

2. 今後の取組の方向性

上記（A）（B）を前提に、鐵道を活かした沿線地域の価値※の最大化を図るため、以下5点の方向性で取組を検討する。

- ※ 単に鐵道事業者の企業収益の増加という観点だけではなく、利便性の向上や利用者数の増加に伴う沿線地域の集客力の増加や土地価値の向上、賑わい創出などを観点を含めた総合的な価値を想定。

① 3社*の一部業務の共通化：収益増加や生産性向上 *上毛電気鐵道(株)、上信電鉄(株)、わたらせ渓谷鐵道(株)

3社の鐵道事業経営は、収益性が低く赤字が続いている。また待遇面の低さも相まって人手不足の問題も顕在化している。そこで、各社が個々に行っている企画営業や財務経理等業務を一部共通化したり、共同発注の体制を整えることなどにより、業務効率化による生産性向上や人手不足改善につなげるための仕組みを検討する。

② 自治体による投資的な追加補助：利便性向上や利用者増加

自治体から鐵道事業者に対する現行の補助金は、主に鐵道の安全運行維持のためのものであり、投資的経費としては活用できていない。鐵道を活かし沿線地域の価値を最大化させるには、利便性を高め、利用者増加につながるための新たな取組を進めていく必要がある。そのため、自治体は、地域公共交通計画・特定事業実施計画の策定を見据え、(1)キャッシュレスシステムの導入、(2)車両更新などについて、国の補助制度を最大限活用しながら、投資的な追加補助を検討する。

③ 3社の経営・業務執行をサポートする体制(組織)づくり：追加補助の効果の最大化

自治体が上記②の投資的な追加補助を行うには、鐵道事業者が当該追加補助を十分に活用するための体制強化が必要となる。そのため、上記①の業務の一部共有・共同化やデータを活用した収益増加策の検討等、3社横断で経営力を強化するためのサポート体制（組織）づくりを検討する。

④ 自治体によるわたらせ渓谷鐵道の鐵道事業に係る執行・経営への参画：沿線地域の価値向上への貢献

沿線地域の価値最大化に向けて鐵道事業において補助金を有効に活用し、各社において鐵道事業の価値向上・推進に向けた組織体制・運営を行うために、鐵道事業に係る意思決定機関（経営会議等）への参画等を含めた契約の締結など、自治体が鐵道事業者とともに沿線地域の価値向上に貢献できる体制づくりを検討する。

⑤ 自治体による政策推進：鐵道を用いた沿線地域ポテンシャルの向上

鐵道の存続を前提に置く以上、自治体はこれまで以上に鐵道を用いて沿線地域のポテンシャルを高めるための政策を推進する必要がある。そのためには、単なるイベントの開催や一過性のキャンペーンではなく、民間企業との連携による利用促進や、国内外の人的交流・企業間連携などを促進する異文化交流の装置として、わたらせ渓谷鐵道を最大限に活用し、沿線地域の交流人口増加につながるよう、地域の実情に応じ様々な側面から持続可能な政策を検討する。また、鐵道が地域にもたらす多面的価値（CO₂削減、地価、人口減少対策等）や社会インフラとしての公共交通網維持の重要性等について、自治体と鐵道事業者が連携して情報発信を行い、沿線住民の公共交通に関する意識醸成を促す取組を検討する。

方向性

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

② わたらせ渓谷鐵道の取組

安全対策

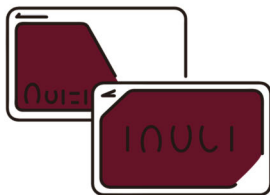
輸送の安全確保のため、計画的な設備投資を実施

沿線住民との協働



わたらせ渓谷鐵道市民協議会をはじめ、商業施設、小中学校、高等学校、自治体との協働を強化し、「地域と共に歩む鉄道」として活動

システム化



GunMaas
INNOVATE YOUR TRIPS

切符の販売、売り上げ集計、空車情報管理をデジタルシステム化
キャッシュレス化、デジタルチケット対応

地域住民が使って残す取組



生活路線としての利用を促進するため、利用者・利用シーンごとの施策を展開

民間企業との連携



水沼温泉（ホットランド）



サンレイク草木（オープンハウス）

画像出典「民間企業との連携」水沼ヴィレッジ HP

トロッコ列車



魅力・集客・収入の柱であるトロッコ列車について一層の集客のため各種関連ツアーを開発

レストラン清流



魅力的なメニューの提供、駅弁の改良、新メニュー開発、ツアーや切符等に組み入れた駅弁販売などにより関連事業の収支改善

イメージアップ



各地イベントへの出展の継続やリアルタイムな情報発信にシフトするなど、情報発信の強化

グッズ開発



購入意欲を掻き立てる魅力あるグッズを随時開発し、収入の確保

1. 基本的な方針・目標、施策（案）

2. 計画の評価・進行管理（案）

2. 計画の評価・進行管理（案）

1 評価指標・目標値

施策・取組の実施状況、目標の達成状況を確認するため、評価指標・目標値を設定します。

みどり市地域公共交通計画では、「標準指標」「個別指標」を設定し、施策・取組の実施状況、目標の達成状況を把握し、評価・改善を行います。

「評価指標」とは、目標の達成状況を適切に表現し、定量的に評価しやすくするための指標として設定するものであり、住民や交通利用者目線でわかりやすい指標を選定することが重要となります。

- ・ 標準指標：地域旅客サービスの提供を確保し、利便性・持続可能性・生産性の高い地域公共交通ネットワークを実現するために、公共交通が適切に運営されているかを判断する上で設定する必要性が高いものであり、「住民等公共交通の利用者数」「公共交通の収支（収支率・収支差）」「公共交通への公的資金投入額」の3つが該当する。原則全ての計画において設定するように努める。
⇒みどり市地域公共交通計画では、公共交通の利用動向を把握するため「利用者数」、公共交通が適切に運営されているかを把握するため「公的資金投入額」を設定する。
- ・ 個別指標：各目標における施策・事業を評価するために設定する。

◎ 評価指標・目標値一覧

区分	評価指標			基準値	目標値	単位	
標準 指標	利用者数		A1	鉄道（市内 11 駅）の利用者数	算出中	168.0	万人/年
			A2	大間々・笠懸路線バスの利用者数	9,456	15,000	人/年
			A3	東町路線バス（美術館線）の利用者数	5,700	10,000	人/年
			A4	電話でバスの利用者数	20,336	24,000	人/年
	公的資金 投入額		B1	大間々・笠懸路線バスの利用者 1 人当たりの財政負担額	1,574	1,574	円/人
			B2	東町路線バス（美術館線）の利用者 1 人当たりの財政負担額	2,478	2,478	円/人
			B3	電話でバスの利用者 1 人当たりの財政負担額	2,800	2,800	円/人
個別 指標	目標 ①	目標 ②	C1	移動に困らない市民の割合（全体）	73.9	76.9	%
			C2	移動に困らない市民の割合（70 才以上）	73.2	68.2	%
			C3	電話でバスにおける予約成立率	52.9	80.0	%
	目標 ③		D1	わたらせ渓谷鐵道の定期外利用者数	19.8	21.2	万人/年
			D2	観光周遊バスの利用者数	43	45	人/便
	目標 ④		E1	公共交通に関するイベント・教室の参加人数	0	前年度より増加	人/年
			E2	電気バス利用による CO2 の削減量	2,830	検討中	kg

◎ 目標値の考え方・算出方法

評価指標		目標値の考え方	算出方法
利用者数	A1	鉄道（市内 11 駅）の利用者数	●人の増加を目指す
	A2	大間々・笠懸路線バスの利用者数	5,544 人の増加を目指す
	A3	東町路線バス（美術館線・沢入線）の利用者数	4,300 人の増加を目指す
	A4	電話でバスの利用者数	3,664 人の増加を目指す
公的資金 投入額	B1	大間々・笠懸路線バスへの公的資金投入額	年間補助額（国・県・市の補助金の合計）/利用者数
	B2	東町路線バス（美術館線・沢入線）への収支率	
	B3	電話でバスへの公的資金投入額	
目標①	目標②	C1	移動に困らない市民の割合（全体）
		C2	移動に困らない市民の割合（70 才以上）
		C3	電話でバスにおける予約成立率
目標③	E1	わたらせ渓谷鐵道の定期外利用者数	観光入込客数の実績を踏まえ設定
	E2	観光周遊バスの利用者数	観光入込客数の実績を踏まえ設定
目標④	F1	公共交通に関するイベント・教室の参加人数	前年度より増加を目指す
	F2	電気バス利用による CO2 の削減量	大間々・笠懸路線バスの増加数を踏まえ設定

2 計画の推進・進行管理

① 計画の実施主体・役割

本計画を進める上で、行政・交通事業者・利用者に加え、みどり市内の商業・観光事業者なども交えた関係者間による協働・連携により、計画目標の達成に向けて施策を実行していく必要があります。このため、それぞれの役割分担や協力体制を明確にし、進めていくことが計画の実現には必要となります。

以下に、本計画を推進するための、実施主体・役割を示します。

◎ 計画推進の実施主体・役割

実施主体	役割
みどり市 地域公共交通活性化協議会	- 計画に基づく事業実施の推進組織として、関係者間との境地の継続や連携・調整を図ります。 - 施策の実施状況や計画の目標に対して、評価・検証を行い、市民への情報開示を行います。
行政 (みどり市、桐生市、群馬県等)	計画に基づく各施策・各取組について、関係者間の連携や各施策・各取組間の調整を図りながら計画を推進します。
交通事業者 (鉄道、バス、タクシー事業者等)	計画に基づく各施策・各取組について、関係者間で連携を図りながら計画を推進します。
利用者 (市民、観光客等)	公共交通の積極的な利用、公共交通に関するイベント等への参加を行い、計画を推進します。
小学生・中学生	- 公共交通の積極的な利用を行い、将来的に公共交通を利用する習慣を身に付けます。 - 公共交通に関するイベント等への参加を行い、大人が見落としがちな改善点を発見します。
大間々高校生	- みどり市・桐生市をはじめとした公共交通の魅力を発信するとともに、公共交通の積極的な利用することで、持続可能な公共交通に貢献します。 - 高校卒業・自動車運転免許取得後も、目的に応じて公共交通と自動車を使い分け、持続可能な社会へ貢献します。
桐生大学生	通学の際には、スクールバス、大間々・笠懸路線バスの積極的な利用に努め、持続可能な社会へ貢献します。
その他関係者 (商業・観光事業者)	みどり市のまちづくりと一体となった公共交通への取組が推進されるようそれぞれの観点から連携を図り、計画を推進します。
市民PRチーム「み撮り部」	若者目線で発見したみどり市の公共交通のいいところを写真におさめ、県内・県外へ情報を発信します。

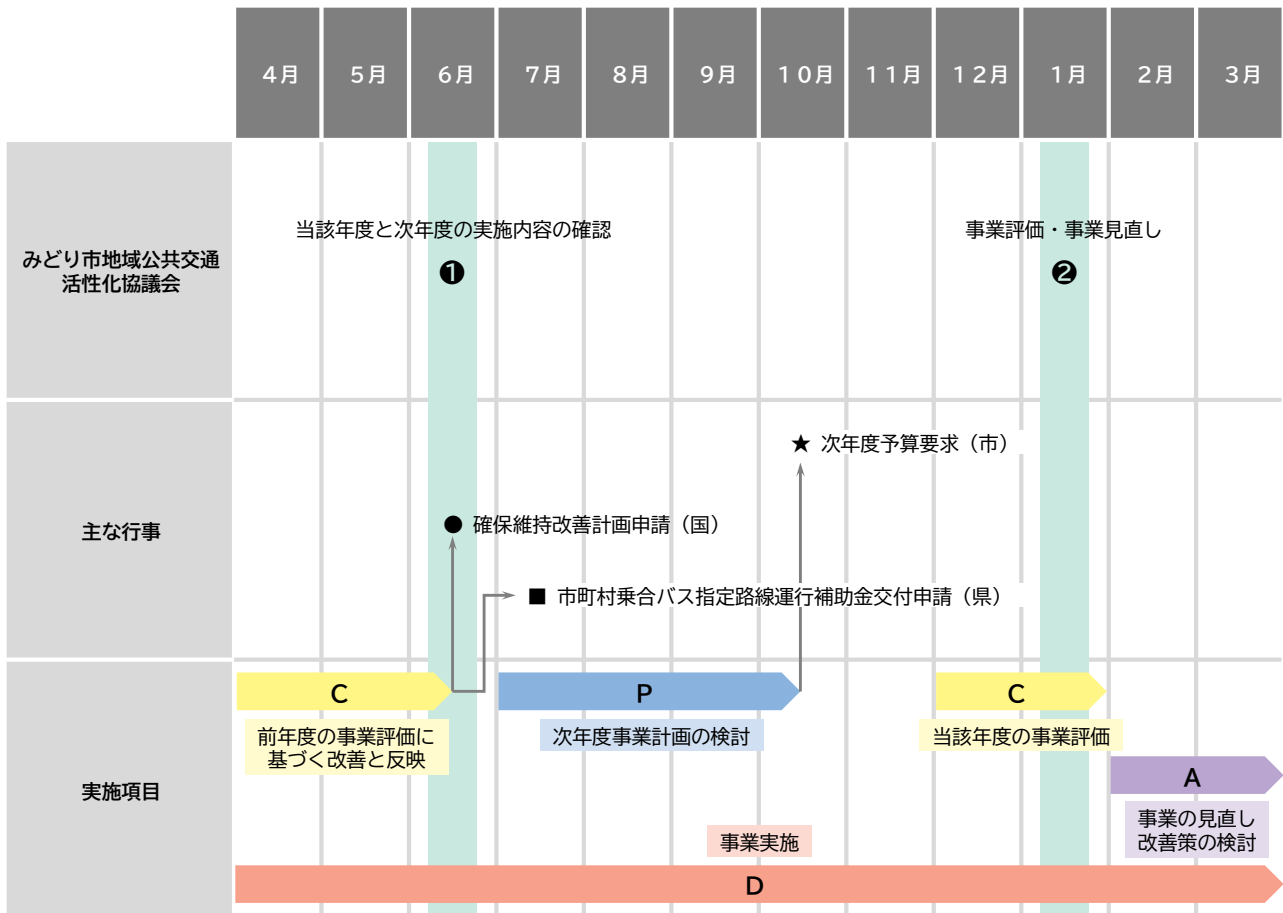
② 計画の進捗管理と評価

本計画を実行し、効果を得ていくためにPDCAサイクルにより進捗確認と評価を行います。

事業の評価にあたっては、「みどり市地域公共交通活性化協議会」において、毎年評価を実施し、その結果に応じて次年度以降の改善策の検討を行います。

計画期間最終年には、期間中のPDCAの結果に基づいた整理を行い、次期計画へと反映します。

◎ 計画推進のスケジュール



3. 今後のスケジュール（案）

3. 今後のスケジュール（案）

月	活性化協議会	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4	STEP5
R6.11	#2	■ みどり市の公共交通の実態について ■ 事業者ヒアリング結果について ■ アンケート調査の設計について	・地域のあるべき姿 上位計画・関連計画等	・現状の把握 ・アンケート調査 (案)	・現状の把握 ・アンケート調査 (案)	
12				アンケート調査 ✓ 市民、高校生アンケート ✓ 来訪者アンケート ✓ 大間々・笠懸路線バス利用者アンケート		
R7.1	#3	■ 書面開催				
2						
3	#4	■ アンケート調査の結果について ■ 公共交通の課題について	・計画の区域 (案) ・計画期間 (案)	・アンケート調査 の結果 ・課題 (案)	・アンケート調査 の結果	
4						
5						
6						
7	#1	■ 基本的な方針について ■ 目標について ■ 施策について	・基本的な方針 (案) あるべき姿 (スローガン)	・目標 (案) あるべき姿を実現する ために達成すべきこと	・施策 (案) 目標達成のための事業	
8						
9	#2	■ 目標について ■ 施策について ■ 評価について		・目標 (案) あるべき姿を実現する ために達成すべきこと	・施策 (案) 目標達成のための事業	・評価 (案) 方法 スケジュール
10			みどり市地域公共交通計画（素案）			
11	#3	■ 地域公共交通計画(素案)について	②計画の区域 ⑥計画期間	①基本的な方針	③計画の目標	④事業・実施主体 ⑤達成状況の評価
12			パブリックコメント			
R8.1						
2	#4	■ 地域公共交通計画(案)について	みどり市地域公共交通計画（案）			
3			みどり市地域公共交通計画			